

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	令和4年度 奨学学術振興事業運営委員会
<b>2 開催日時</b>	令和4年11月18日(金) 午前10時00分～
<b>3 開催場所</b>	姫路市総合福祉会館5階 第4会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	(会長) 竹田 佑一 (委員) 佐和 吉敬、秋本 剛宏、藤澤 浩訓、濱田 敏子、牛尾 礼子 (事務局) 政策局 横田理事 高等教育室 高橋室長、西本係長、中川主任 (欠席者) 中嶋 佐恵子
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人なし
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	1 「尾上学術振興助成事業産学協同研究助成金に係る採択要件及び採択基準の改正について」 2 「連合婦人会奨学事業に係る寄附受納及び基金取り崩しについて」
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

	<p>開 会</p> <p>&lt;新委員の紹介&gt;</p> <p>&lt;議事進行&gt;</p> <p>&lt;事業概要説明&gt;</p> <p>&lt;令和3年度奨学学術振興事業の実績報告&gt;</p> <p>&lt;令和4年度奨学学術振興事業の事業内容説明&gt;</p> <p>&lt;議事&gt;</p> <p><b>【議案1】</b></p> <p>「尾上学術振興助成事業産学協同研究助成金に係る採択要件及び採択基準の改正について」（議案内容説明）</p> <p>委員 産学協同研究助成選考において同一研究かどうかの判断が非常に難しいため、定義を設けた方が判断が容易になるという理由でこの議案が提案されているのだと思う。</p> <p>同じ研究でも少し表現を変えるだけで全く違う印象になる。これでも同一研究かの判断は難しいが、研究者と企業の組み合わせが同じ場合は同一研究とみなすということでもいいと思う。</p> <p>会長 実際、選考を行う産学協同研究助成選考委員会において判断に支障があるということか。</p> <p>事務局 そのとおりである。同一研究か否かの判断に時間がかかり、本来の研究内容の選考の時間が短くなる、会議時間が長くなる等の問題が生じている。</p> <p>会長 3回目の採択基準についても産学協同研究助成選考委員会から規定が必要との意見が出たということか。</p> <p>事務局 そのとおりである。採択の基準が委員によって分かれたため、明確な定義が必要と産学協同研究助成選考委員会から意見が出た。</p>
--	--

	<p>申請の際、事業計画にも商品化等を盛り込んでもらった上で選考会でプレゼンしてもらおうこととなるので、判断は容易になると考える。</p>
会 長	<p>様々な研究があり比べるのが難しいが、一方で、なるべく多くの方に助成したいという気持ちも事務局にはあると思う。</p>
事務局	<p>長期に渡る研究もあると思うので、一旦何年か空いたら再度申請できる仕組みを提案させてもらった。</p> <p>議案では仮に申請できない期間を2年としているが、年数についても審議していただきたい。</p>
委 員	<p>企業と大学が協同で研究するのだから、何かしらアウトプットが見えているものでなければならぬ。それが、例えば、10年続けて何も成果が出ないというのはあり得ない話なので、3年を目途に成果が出ない場合はリセットして、もう一度検討させるという仕組みは客観的に判断されるものとなるので良いと思う。</p> <p>また、3回目の申請の際には何らかの実用化等が見込まれる研究への助成という前提があるので、その点が明確でない研究は厳しく審査してよいと思う。</p>
委 員	<p>研究を行う時はある程度目途をつけて行うものであるため、この案でいいと思う。</p>
委 員	<p>研究を行う際は目標を設定する・目標を達成するというプロセスが必要である。</p>
会 長	<p>議案1について、原案のとおり決定してよいか。</p>
委 員	<p>「異議なし」</p>
会 長	<p>本委員会としては、議案1は原案のとおりとすることに決定した。</p>
委 員	<p><b>【議案2】</b></p> <p>「連合婦人会奨学事業に係る寄附受納及び基金取り崩しについて」（議案内容説明）</p> <p>少しでも多くの人に支援があたってほしいと思うので、奨学金の採用人数を増やすと</p>

	<p>いう話は非常にありがたい。</p>
委 員	<p>奨学金受給中の学生も在籍しているので、非常にありがたい話である。</p>
委 員	<p>原案で特に問題ないと思う。</p>
会 長	<p>議案2について、原案のとおり決定してよいか。</p>
委 員	<p>「異議なし」</p>
会 長	<p>本委員会としては、議案2は原案のとおりとすることに決定した。</p>
	<p>&lt;その他&gt;</p>
会 長	<p>産学協同研究助成事業に関して、教授同士では互いにどのような研究を企業と協同して進めているかは把握しているものか。</p>
委 員	<p>各自で様々な研究費の申請を行ったり、色々な企業と協同研究の話を進めたりしているが、大体は把握できていると認識している。</p>
委 員	<p>制度のねらいとして、たくさんの人を支援したいというのが寄附者の意向であったと思うので、今回の採択の要件・基準の改正は寄附者の意向に沿ったものであると思う。</p>
会 長	<p>大学と企業が連携して色々な研究を行うということがもっと活発になっていくべきだと思うが、企業も大学でどのような研究が行われているのかを掴みきれていない。一方、大学もどの企業と組めばいいかが分からないというところがあるのではないか。その辺りを行政が仲介して PR すればもっと産学連携が活発になって、レベルが上がっていくのではないか。</p>
委 員	<p>大学に産学連携に関する窓口があるので、そこを通じて企業とのマッチングや情報公開を行っている。</p>
事務局	<p>地域の企業と大学との連携と、企業と学生を繋ぐことを目的とした「企業・大学・学</p>

会 長	<p>生マッチング in HIMEJI」を開催しているので活用してもらいたい。</p> <p>複数の企業が小さなブースでやるのではなく、1社で興味を持っている学生を集めて大規模にやるくらいのパワーが必要かと思う。それくらいの迫力がある機会を作ればもっと良くなるのではないか。</p> <p>閉 会</p>
-----	--